



校長通信

尾花沢を背負って立つ学校～自分たちで創り上げるシン尾花沢中～

輝け！シン尾花沢中

けだかく晴れた 月の峰 雲間にそそる 鳥海も

第145号

令和7年

12月15日

尾中生と同窓生が「幸せ」について語り合った日①～おもだか塾～

12月11日（木）は、同窓会事業「おもだか塾」が開催されました。

第一部は、尾中生と同窓生とが「幸せ」について意見交換を行いました。

第二部は、「三日坊主にならない」テクニックを記した著書「継続の技術」が話題の、利用者200万人の習慣化アプリ開発者である同窓生の戸田大介さん（bondavi代表）の講演を聞きました。



今号から、第一部における尾中生と同窓生との意見交換について紹介します。

当日は平日にもかかわらず「尾中生のために」と45名ほどの同窓生の方々が来校され、生徒のグループに1名ずつ同窓生の方が入り、自分にとっての「幸せ」について意見交換しました。その後、生徒から同窓生へ「尾中生に期待することは？」「中学生の頃、考えていた幸せとは？」といった質疑応答が行われました。

第一部での生徒の感想を紹介します。

須田かりんさん（1年）：「幸せは探すものではなく感じるもの」とおっしゃっていて、これから生きていく中でたくさんの幸せに会えると思うと、未来がとても明るく感じられました。

折原山斗さん（2年）：「今を大切に生きてほしい」「自分らしく素直に生きてほしい」という言葉が心に残りました。

荒川結夢さん（2年）：「弱者でも一番になれる」というお話を聞いてすごくおもしろかったです。自分で一番になれるものを見つけて、自信をつけていきたいです。

井上桜羽さん（3年）：「ポジティブ思考になることが大事、悲しいところは見ない、良いところだけを見るといいよ」と教えていただき、考え方が変わりました。

遠藤光一郎さん（3年）：「大人になって後悔することがある」と聞いて、自分で自分のすることを決めることや、何事も恐れずに挑戦したりすることが大事であることが分かりました。

全校生徒と同窓生が体育館いっぱいに、意見交換や質疑応答する様子は圧巻の光景でした。最初は硬かった尾中生の表情が柔らかくなるとともに、同窓生の方々が前のめりになって楽しそうに意見を述べ始めていくのが、とても印象的でした。

次号でも、第一部における尾中生の感想を紹介します。また、同窓生の感想も紹介します。

【文責：校長 工藤雅史】

